

黒松町内会

地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業
協働実践助成

「防災アドベンチャー」を用いた 地域の防災活動活性化事業

中間報告

災強のすけっと
黒松町内会

災強のすけっと

団体の活動目的

防災イベントの企画や防災啓発活動を通して、地域住民の防災意識の向上を目指している。

これらを通じて地域の減災防災にも注力し、持続可能な防災まちづくりに寄与することで、災害に強い社会を創るためのお手伝いを行うことを目的としている。

これまでの取り組み

福室新田前町内会での
「防災アドベンチャー」の実施



パンフレットの作成・配布



災強バッグワークショップの実施



黒松町内会

団体の活動目的

会員相互の親睦をはかり、生活の向上と町内発展のために、会員共通の問題解決を図ることを目的としている。

これまでの取り組み

- ・町内の道路、交通、通信、衛生など生活環境にの改善に関する活動



資源回収



花壇の管理・整備



ごみ収集積所の
維持管理



交通安全推進

- ・町内の防犯、防災のために必要な活動：防災関連事業の推進
- ・会員間の親睦を深める活動：各種お祭りの開催

災強のすけつととして

現状・課題

地域防災に関するヒアリング

3.11を知らない世代への防災教育
町内会の防災活動の困難化↓
防災アドベンチャー開発

しかし...

無数にある町内会全体で災強のすけつとが
アドベンチャーを実施し続けることはマンパワー や 時間
の面で不可能に近い。

黒松町内会として

現状・課題

近年...

- ・子育て世代を中心にした新住民の流入が多い
- ・町内会役員を中心に防災プロジェクトを立ち上げた

↓
しかし...コロナ過で交流の機会が激減したことや役員の高齢化により
街歩きや防災訓練の実施に至れていなかった

非属人的かつ簡便な開催方法の検討として

実用的な手順書の作成



黒松町内会からはじめる

地域防災の活性化



若い世代を巻き込んだ

黒松全域の町内会活動
促進

町内会主体で簡便に防災アドベンチャーを
実施できる体制構築を目指す

防災アドベンチャー
in 黒松町内会

▲ 参加者数：小学生とその保護者 20名以上 ➡ **小学生7名＋保護者3名＝10名**

※その他：地域住民3名、近隣の高校生ボランティア3名、J:COM、河北新報による取材

○ 参加者アンケート満足度：80%以上 ➡ **92%**

○ 防災知識理解度：実施前後の比較で30%以上向上 ➡ **事前平均：1.88点**

事後平均：3.48点

理解度上昇幅：+1.60点（≒約+42%）

手順書の改訂

○ 黒松町内会からのフィードバック項目：10項目以上

➡ **準備段階で3項目＋事後アンケートで8項目＝11項目**

▲ 改訂版手順書の完成：9月末まで ➡ **11月末に完成予定**

● 手順書の実用性評価：町内会役員による評価で80点以上

↓ 以下 9月30日時点で未着手

次年度展開に
向けて

- 黒松連合町内会での次年度事業への組み込み
- 説明会参加団体数：10団体以上
- 次年度実施検討団体数：5団体以上

※附帯意見に関して

『今後活動エリア拡大にあたり、その地域の町内会と協力しながら取り組むこと』

黒松町内会の協力を得て、黒松小学校での実施をはじめ、

黒松連合町内会に限らず、八乙女地区を中心に活動エリア拡大を図る予定。

02

令和7年度事業の実施内容

事業の実施体制・スケジュール

4月～6月 ※イベント実施は6月29日

防災アドベンチャー実施

災強のすけつと

黒松町内会が実施する
防災アドベンチャーにアドバイザー
として介入

黒松町内会

防災アドベンチャー手順書（2025.3時点）を基に
黒松町内会主導で

防災アドベンチャーを実施した

自主防災組織を構成する町内会の
小学生を対象にした防災イベント

7月～11月

手順書の改定

改訂作業

- フィードバックを受け、有用性を評価した
- 実用的な手順書へと改訂中

改訂作業

- 町内会実施の運営経験をもとに手順書の有用性についてフィードバックを行った
- 改定にあたって町内会での運営という観点から監修する

12月～来3月

次年度展開に向けて

開催希望団体への説明会の実施

- 実施希望の団体からの防災アドベンチャーの内容に対する相談への対応

開催希望団体への説明会の実施

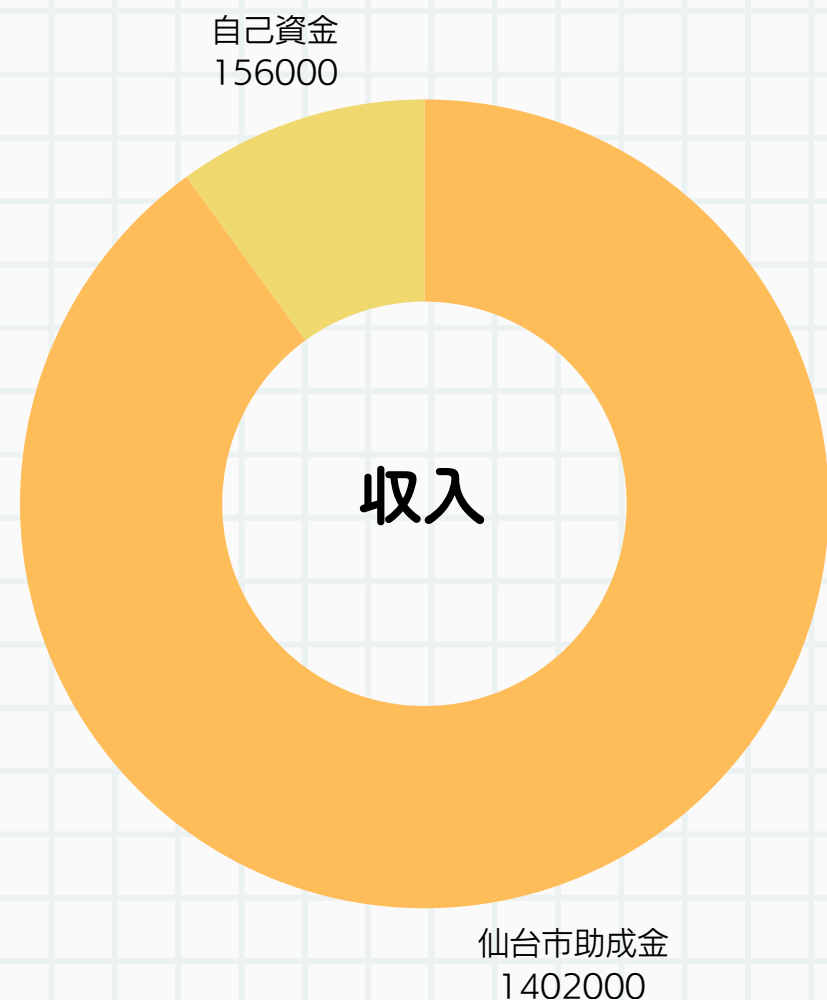
- 実施希望の団体からの町内会での運営方法についての相談への対応

※まちづくりスポット仙台とも協働し、
説明会イベント実施予定

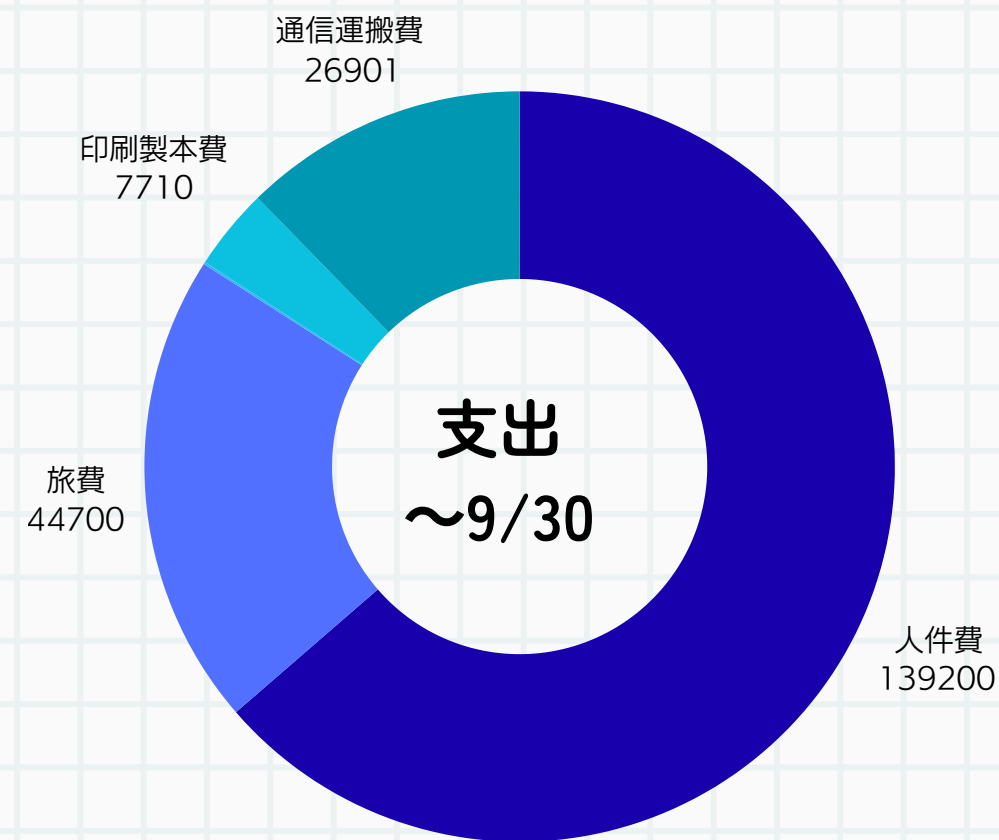
02

令和7年度事業の実施内容

使用経費 ～9月30日



事業費総額	¥ 1,558,000円
仙台市助成金	¥ 1,402,000円
自己資金	¥ 156,000円



支出総額(～9月末日)		¥ 218,511円	
人件費	¥ 139,200円	印刷製本費	¥ 7,710円
旅費	¥ 44,700円	通信運搬費	¥ 26,901円

準備

対面ミーティング実施回数：3回

参加人数：黒松町内会約8名、災強のすけっと約4名

準備内容

防災マップをもとに地域の防災拠点について考えた。
子どもたちに伝えたいポイントについてミッションの作成。
アドベンチャー当日の段取りを確認した。

当日

参加者：子ども7名、保護者3名

スタッフ：黒松町内会10名、災強のすけっと4名

その他：地域住民3名、近隣の高校生ボランティア3名
J:COM、河北新報による取材

準備内容

防災バッグワーク(災強のすけっと)、アドベンチャーの進行、ミッションポイントでのクイズの出題、防災拠点の説明等を行った。
まち歩きでは、子どもたちと一緒に地域を歩いた。

※審査会意見に関して

災強のすけっとでは、「防災アドベンチャー」運営チームの新規メンバー募集を行い、1月より1名の新メンバーが加わった。
また、黒松町内会では当初、防災サポーターのみでの運営を予定していたが、「興味のある方」が数名加わり、地域の裾野が広がった。
その中で、小学校での実施を希望する声も上がり、継続的な実施に向けた第一歩となった。

まちの防災リーダーのみなさま中心に積極的に話し合いを進めていただく事ができた。



アンケート 一部抜粋

スタッフ

- ・今まで無関心だったことに気づけた。防災への関心が高まった。
- ・パッケージ化されていたら保護者の負担が少なく、PTAの活動にも取り込めるのではないかな。
- ・手順書に当日の動きの見える化が必要。

参加者

- ・避難所の場所や、公衆電話の使い方を家族にも教えてあげたいと思った。
- ・避難所に行けるようにがんばりたい
- ・防災バッグを事前に準備したい



実施者アンケートのをもとに災強のすけっとが手順書の改訂を実施中

準備内容

- ① 手順書にアドベンチャーの目的や当日の流れを明記
- ② 大人が読んでも違和感がないように文末表現を配慮
- ③ 過去の事例を積極的に提示
- ④ 当日までにやらなくてはならないことを最初に提示

- ⑤ 目次、ページ番号を追加
- ⑥ 1から考えてもらう構成から、誘導が多めの構成に変更
- ⑦ 印刷して使用する資料のテンプレートを作成した
- ⑧ 余裕を持ったスケジュールで準備事項を記載
- ⑨ 手順書に出てくる用語の統一



手順書改訂

- 1 実施者アンケートのをもとに災強のすけっとが手順書の改訂中（10月上旬完了予定）
- 2 黒松町内会のみなさまがその添削（11月中旬完了予定）
防災アドベンチャー実施により全体像を把握したうえで「アドベンチャーを知っている」目線からの添削をしていただく。
- 3 黒松町内会からの添削をもとに、ブラッシュアップ（11月末完了予定）



次年度展開

次年度展開に向けた「防災アドベンチャー説明会」の準備

まちづくりスポット仙台と協働し、災強のすけっとのコンテンツに関するワークショップを実施予定(来3月)。
同日同会場で、「防災アドベンチャー説明会」を実施予定。

準備内容

- ・ イベント参加者呼びかけ：ランチ仙台周辺の町内会、仙台市内で活動する学生団体、SBL等を含め、多層に向けてイベント告知を実施予定。
- ・ 説明会内容の検討：黒松町内会、災強のすけっと、まちスポで内容吟味を行う。

次年度以降の展望

手順書による
防災活動の活発化

手順書を用いることで、防災アドベンチャーを「誰でも・どこでも」実施可能になる。
災強のすけっとの手を離れ、より多くの地域で開催が実現することを目指す。